

化学

企業

Listen to your heart!

小野昇子 (三井化学株式会社機能化学品開発部 チームリーダー)

仕事の内容とやりがい

入社以来、三井化学の研究所で、固体触媒や高分子の表面界面に関わる研究開発に携わっています。今は、エレクトロニクス用の薄膜を開発中。いろいろな人の力を借りながら新製品をリリースしようとしています。研究は、自然科学を紐解く仕事。自然科学は誰に対してもfairだし、同じ課題に取り組む人たちと、たとえ言語が違う外国の人でも、すぐに理解し合えて友人になれるのが好きです。一方、新製品の開発は、たくさんの人たちの力を結集させて大きなうねりにして前進させる仕事。自分ひとりでは成し得なかったことが、ほかの人の力を借りて達成できた、その瞬間がたまらなく好き!

仕事と生活のバランス

20代のころは、遅くまで会社において、自宅でも夜遅くまで仕事をしていました。でも、誰でも、家族を持ったり年を重ねたりすると、もっと大切にしたいことやしなければならないことができると思います。自分が大切にしたいことや、しなければならないことを明確にすること、譲れる点は譲ること、家族や職場の人たちと良く話をし、いざという時にはサポートしあうことが、大切だと思います。(本当は、家族や職場の人たちのおかげで、何とかやってこられているだけかもしれませんが。)

進路決定のきっかけ

理系に決めたのは、高校生1年。両親兄妹全員理系だったし、自分自身理系の科目が好きだったので、自然と理系を選択。大学進学先を決めたのは、高校3年。テニスが好きで、思い通りの球を打てるラケットを作りたいと思ったので、材料科学系を選択。大学4年のとき、就職か大学院進学か迷いました。大学院(修士)に進む人がほとんどでしたが、まずは社会を見てみたかったので学部で卒業。勉強不足を痛感したら、大学院に行こうと思っていました。何を作りたいか決めかねていたので「素材」を扱う総合化学メーカー(三井化学:当時三井東圧化学)に就職しました。

進路選択に対するメッセージ

岐路に立ったとき、自分の心の声に耳を澄まして(Listen to your heart!)ほしいです。自分のやりたいこと、大切なこと、挑戦したいことに向き合ってほしい。社会は、私が高校生や大学生の時に思っていたより、ずっと広いし深いです。世界中には色々な人がいて、様々な考え方・働き方がある。特にこれからは多様な人材が求められます。きっと必要とされる場所があるはず。それでも悩んだら、たまには周りの波に身を任せてみるのもよいと思います。

海外留学・勤務を通じて得たこと・得したこと

30代前半で2年間。フランス・ストラスブールにある国立科学センター(CNRS)に、Visiting Research Scientistとして滞在しました。研究所での生活の中で特に印象に残ったことは人々の「多様性」でした。実験の進め方、時間の感覚、人との距離の取り方、人生観など会う人会う人違いました。自分にとって大切なものは何か、なぜそう思うのか、初めて本気で自分に向き合ったと思います。日本でも海外でも、自然科学を紐解く研究でもお客様に製品を届けるビジネスでも、自分の考えを自分の言葉で人に伝えること、多面的な視点を持つことが大切だと再認識しました。

海外の女性研究者の活躍と位置づけについて感じたこと

ストラスブールでは、仕事をしている女性がとても多いと感じました。自転車通勤か車通勤が多く、パパが保育園の送り迎えをする姿が多く見られました。女性も男性も、夜遅くまで残業をせず、バカンスはしっかり休み、家族と過ごす時間を何より大切にしていました。研究者に関しては、学生までは女性の割合が多くても、教授はほんのわずか。日本とあまり変わらないように思います。

海外留学・勤務を決めたきっかけについて

海外で暮らすことは中学の頃からの夢でした。また、入社以来の上司がドイツに留学した経験がある人で、よくその留学経験話を聞いていたことも影響したかもしれません。三井化学には、「海外研究派遣制度」があり、年間数名、欧米に研究者を派遣していました。私が、海外研究派遣の機会を頂いたのは、入社10年目のころ。そろそろ少し違う仕事に挑戦させてみるか、とチャンスをくださったのだと思います。

滞在先の思い出・生活者としての体験

フランス、ストラスブールは、人口約26万人。ドイツとフランスの間で、紛争のたびに領有権が四回も変わった「アルザス地方」の中心地です。旧市街地はユネスコ世界遺産に指定され、少し足を延ばすとワイン用のブドウ畑が四季の移ろいを楽しませてくれます。「ここでしかできないことを体験して帰ろう」と心に決め、市場で買い物しては調理方法を習い、時間と体力がある限りいろいろな国に旅に出ました。また、来ては去るたくさんの研究者や学生たちと、一緒にコーヒを飲み、たわいない話をし、別れる時「またいつか地球上のどこかで会おうね」と約束してきました。思い出と友人は一生の宝物です。

<小野昇子(おのしょうこ)プロフィール>

1990年桐蔭学園高校卒業、1994年早稲田大学理工学部応用化学科卒業、三井東圧化学(現三井化学)入社、総合研究所触媒研究部に配属、2000年日本化学会技術進歩賞受賞、2001年北海道大学理学研究科博士号取得、2003年フランス国立研究科学センターに三井化学より海外研究派遣、2005年帰国後マテリアルサイエンス研究所にて高分子薄膜の研究開発・用途探索、2010年より機能化学品開発部にて新製品開発。



研究室のメンバーと。(最後列左側がDecher教授。中央が筆者。)